

⇒ 調査報告 ⇐

越後妻有大地の芸術祭2012に関する質問紙調査報告¹

鷲 見 英 司²

本報告は、2012年夏に実施された「越後妻有大地の芸術祭 2012」³に関する、地域住民を対象とした質問紙調査（以下、アンケート調査）の単純集計結果をまとめたものである。本アンケート調査の目的は、大地の芸術祭とソーシャル・キャピタルとの関係性から、芸術祭の地域活性化効果を検証することである。また、2006年夏の第3回開催時にも同様の調査（以下、2006年調査）を行っており、その後の変化を検討することも目的としている（2006年の第3回大地の芸術祭の調査については、勝村ほか（2008）、鷲見（2010）を参照）。

本アンケート調査は大地の芸術祭に関する設問とソーシャル・キャピタルに関する設問とから構成されている。第1に、設問1では大地の芸術祭に対する地域住民の意識や評価、設問2では芸術祭を通じた地域の変化、設問3では芸術祭を通じた地域住民個人の生活の変化についてそれぞれ調査した。第2に、地域のソーシャル・キャピタルを把握するために、設問4では地域内の住民交流、信頼、まとまり等の状況について、設問5では社会参加の状況、信頼、互酬性等に関する一般的な意識について調査した。最後に、回答者の属性を調査した。アンケート調査票は文末に掲載した。

1. アンケート調査の概要

アンケート調査は、表1に示したように、第5回大地の芸術祭の開催期間中である、2012年8月22日から9月5日にかけて、十日町市と津南町の住民を対象とし、郵送法で行った。

サンプルの抽出は、まず、2006年調査で対象とした66集落から500世帯を抽出した（「06調査」）。つぎに、2012年3月時点の住民基本台帳調査に基づく十日町市、津南町の世帯分布を反映して地域別に新たに500世帯をランダムに抽出した（「世帯基準」）。具体的には、十日町地域50%、川西地域12%、中里地域8%、松代地域7%、松之山地域5%、津南町18%のように配布枠を決定したうえで、地域内の各地区・集落から世帯分布を反映して抽出した。サンプルの抽出には十日町市、津南町市の電話帳を用いた。ただし、実際の地域別の配布世帯数は、表2のようにアート作品設置集落を主に対象とした2006年調査対象集落を含んでいるため、世帯分布を完全に反映したものになっていない。総配布数は、1世帯につき2部配布したため2,000部である。世帯に2部配布する方法をとったのは、2006年調査ではサンプルの属性が世

¹ 本稿は科学研究費補助金（基盤C）「中山間地域・離島における居住の継続を支える社会関係資本の実態把握調査」（課題番号：23500903）の研究成果の一部である。澤村明准教授（新潟大学）には本報告作成にあたりアドバイスを受けた。アンケート調査に協力いただいた十日町市・津南町の住民の皆様には、ここに記して感謝の意を表したい。

² 新潟大学経済学部准教授 esumi@econ.niigata-u.ac.jp

³ 大地の芸術祭2012の入込客数は488,848人と前回の2009年（375,311人）に比べて30%増加した。

帯主である男性に偏っていたためであり、女性サンプルを増やすことを試みた。

表 3 より、回収は 484 部である。地域別回収割合と実際の地域別世帯分布とを比較すると、十日町地域のウェイトが実際よりかなり低く、一方で、松代地域と松之山地域の割合が高い。

表 4 より回収率は 24.2%で、川西地域が 20%を下回って他地域よりわずかに低い。

表 1 アンケート調査の概要

項 目	内 容
実施時期	2012年8月22日～9月5日
対 象	十日町市, 津南町住民
抽出方法	十日町市, 津南町市電話帳より抽出
配布数	2006年調査集落: 1,000部 (500世帯), 世帯数基準: 1,000部 (500世帯)
配布方法	郵送法
回収率	484部, 24.2%

表 2 地域別配布世帯数と 2012年3月の世帯・人口割合

地域	06調査	世帯基準	地域別計	地域割合	世帯割合	人口割合
十日町地域	144	250	394	39.4%	57.6%	57.3%
川西地域	60	60	120	12.0%	9.9%	10.5%
中里地域	105	40	145	14.5%	7.2%	8.1%
松代地域	116	35	151	15.1%	6.0%	5.1%
松之山地域	55	25	80	8.0%	4.0%	3.4%
津南町	20	90	110	11.0%	15.3%	15.6%
総計	500	500	1,000	100.0%	100.0%	100.0%

注: 世帯割合と人口割合は 2012年3月末現在

表 3 地域別回収数と地域別回収割合

地域	06調査	世帯基準	地域別計	地域割合
十日町地域	67	123	190	39.3%
川西地域	24	21	45	9.3%
中里地域	43	18	61	12.6%
松代地域	71	19	90	18.6%
松之山地域	29	6	35	7.2%
津南町	18	41	59	12.2%
不明			4	0.8%
回収数計	252	228	484	100.0%

注: 地域割合は地域別計の回収数計 (484) に占める地域別の割合。回収した地域が明らかでないものを「不明」とした。

表 4 回収率

地域	06調査	世帯基準	地域別計
十日町地域	23.3%	24.6%	24.1%
川西地域	20.0%	17.5%	18.8%
中里地域	20.5%	22.5%	21.0%
松代地域	30.6%	27.1%	29.8%
松之山地域	26.4%	12.0%	21.9%
津南町	45.0%	22.8%	26.8%
不明			0.2%
回収率計	25.2%	22.8%	24.2%

2. 回答者属性

アンケートでは、回答者属性として性別、年齢、職業、同居人、出生地、居住年数、学歴を調査した。ここでは、無回答者を含めて集計している。本報告の各クロス集計表の(%)は項目ごとの各サンプル(06調査, 世帯基準, 不明)の割合を示している(()内の合計は100%)。また、各表には独立性の検定を示す χ^2 検定の結果(無回答除く)を示した。

回答者の性別は男性が65.5%、女性が31.0%であり、男性に偏っている。年齢構成をみると、65-75歳と75-84歳がそれぞれ20%超で、これらの世代を合わせると全体の46.9%となる。65歳以上の高齢者の割合は51.9%となり、十日町市の20歳以上人口(49,137人)に占める65歳以上人口(18,777人)の比率38.2%(2012年3月現在)よりも高い。20歳以上の方に回答してもらうようにアンケート調査票に記載した。男女比との関係を見ると、30歳代と40歳代は男女比が同程度であるが、50歳代以上になると男性の割合が70%程度になる。回答者の職業は、「年金生活者」、「農業」、「民間企業・団体」の順で割合が多い。高齢者の割合が高いことから、年金生活者の割合が高い。

回答者の居住状況を見ると、世帯人数は、2人世帯(35.0%)、3人世帯(17.7%)、4人世帯(15.8%)の順で多い。単身者(=世帯人数1名)は8.1%であり、最大は10名(4世代居住)の世帯である。世帯人数と構成員との関係から、2人世帯では配偶者との同居が多い。高齢者の割合が高いことから、高齢夫婦世帯が多数を占めていることが推察される。居住年数は、「50年以上」が52.3%と最多であり、40年以上と合わせると、66.1%となる。出生地は、66.1%が現在居住する地域である。地域の特徴として、住民は長期間にわたって出生地に住み続けている。男女別でみると、男性は80%程度が地域内出身であるが、女性は40%程度である。学歴は、「高校まで」が38.6%で最も多く、「中学校まで」の37.2%を合わせると75.8%になる。

すべての属性について、06調査と世帯基準には統計的に有意な違いが確認されなかった。

問1 性別

問1	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
男性	162	(51.1)	152	(47.9)	3	(0.9)	317	65.5
女性	82	(54.7)	67	(44.7)	1	(0.7)	150	31.0
無回答	8	(47.1)	9	(52.9)	0	(0.0)	17	3.5
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(1)=0.480, p=0.488$

注：(%)は項目ごとの06年調査、世帯基準の割合で()内の合計は100%。区分が明らかでないものを「不明」。

問2 年齢

問2	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
20歳代	4	(57.1)	3	(42.9)	0	(0.0)	7	1.4
30歳代	10	(47.6)	11	(52.4)	0	(0.0)	21	4.3
40歳代	8	(36.4)	12	(54.5)	2	(9.1)	22	4.5
50歳代	42	(51.9)	38	(46.9)	1	(1.2)	81	16.7
60-64歳	43	(53.1)	38	(46.9)	0	(0.0)	81	16.7
65-75歳	70	(57.9)	51	(42.1)	0	(0.0)	121	25.0
75-84歳	48	(45.3)	57	(53.8)	1	(0.9)	106	21.9
85歳以上	16	(66.7)	8	(33.3)	0	(0.0)	24	5.0
無回答	11	(52.4)	10	(47.6)	0	(0.0)	21	4.3
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(7)=6.785, p=0.452$

問 3 職業

問3	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
専業主婦・主夫	25	(55.6)	20	(44.4)	0	(0.0)	45	9.3
民間企業・団体	35	(42.7)	44	(53.7)	3	(3.7)	82	16.9
自営業又はその手伝い	14	(51.9)	13	(48.1)	0	(0.0)	27	5.6
公務員・教員	9	(50.0)	9	(50.0)	0	(0.0)	18	3.7
パート・アルバイト	17	(56.7)	13	(43.3)	0	(0.0)	30	6.2
学生	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	2	0.4
農業	58	(55.2)	46	(43.8)	1	(1.0)	105	21.7
漁業	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	-
林業	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	-
年金生活者	79	(54.5)	66	(45.5)	0	(0.0)	145	30.0
その他	2	(33.3)	4	(66.7)	0	(0.0)	6	1.2
無回答	12	(50.0)	12	(50.0)	0	(0.0)	24	5.0
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

 $\chi^2(8)=4.116, p=0.846$

問 4 同居人数, 問 5 同居人 (多重回答) : 同居人数と同居人とのクロス集計

問5 同居人	問4 居住人数										無回答	合計
	1人	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
配偶者	-	139	67	60	35	28	19	9	1	1	5	364
子ども	-	4	42	54	34	26	19	9	1	1	5	195
子どもの配偶者	-	1	1	10	11	14	11	7	1	1	1	58
孫・ひ孫	-	0	0	6	13	12	14	8	1	1	1	56
祖父母	-	0	5	9	2	2	3	0	0	0	0	21
自分の親	-	10	22	22	13	9	8	4	1	0	1	90
配偶者の親	-	1	9	6	8	5	1	2	0	0	0	32
自分の兄弟姉妹	-	4	2	2	3	1	2	0	0	0	0	14
配偶者の兄弟姉妹	-	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	-	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	6
回答者計	37	160	81	72	41	29	20	9	1	1	6	457
回答者割合%	8.1	35.0	17.7	15.8	9.0	6.3	4.4	2.0	0.2	0.2	1.3	-

問 6 居住年数

問6	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
2年未満	3	(60.0)	2	(40.0)	0	(0.0)	5	1.0
2年から5年未満	2	(66.7)	1	(33.3)	0	(0.0)	3	0.6
5年から10年未満	5	(50.0)	5	(50.0)	0	(0.0)	10	2.1
10年から20年未満	12	(46.2)	13	(50.0)	1	(3.8)	26	5.4
20年から30年未満	12	(32.4)	23	(62.2)	2	(5.4)	37	7.6
30年から40年未満	32	(50.8)	31	(49.2)	0	(0.0)	63	13.0
40年から50年未満	36	(53.7)	31	(46.3)	0	(0.0)	67	13.8
50年以上	140	(55.3)	112	(44.3)	1	(0.4)	253	52.3
無回答	10	(50.0)	10	(50.0)	0	(0.0)	20	4.1
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

 $\chi^2(7)=6.296, p=0.506$

問 7 出生地

問7	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
地域内	173	(54.1)	146	(45.6)	1	(0.3)	320	66.1
地域外	67	(46.9)	73	(51.0)	3	(2.1)	143	29.5
無回答	12	(57.1)	9	(42.9)	0	(0.0)	21	4.3
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

 $\chi^2(1)=1.585, p=0.208$

問 8 学歴

問8	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
中学校まで	93	(51.7)	85	(47.2)	2	(1.1)	180	37.2
高校まで	97	(51.9)	90	(48.1)	0	(0.0)	187	38.6
専門学校・短大まで	33	(56.9)	25	(43.1)	0	(0.0)	58	12.0
大学まで	16	(45.7)	17	(48.6)	2	(5.7)	35	7.2
大学院まで	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	2	0.4
無回答	12	(54.5)	10	(45.5)	0	(0.0)	22	4.5
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

 $\chi^2(4)=0.700, p=0.951$

3. 設問 1 大地の芸術祭について

設問 1 では、大地の芸術祭に対する地域住民の意識や評価を調査した。

問 1-1 では、芸術祭に対するイメージを質問した。芸術祭に対するイメージとして、「良い」と回答した割合は全体の 54.1%で、「悪い」はわずか 1.9%にすぎない。まず、「良い」と回答した 262 名からその理由に回答した（欠値 4 を除く）258 名の「良い」の理由に注目すると、問 1-2 より、「アート作品」、「来訪者」、「地域住民の対応」、「アーティストの活動」、「こへび隊の活動」が高い。良い理由の「その他」には、地域や集落の活性化（3 件）、経済効果（2 件）、地域のアピール（2 件）が挙げられた。良い理由の回答者%の合計 249.9%は、回答者 1 人につき平均で 2.5 程度の理由を選択したことを示している（以下の多重回答形式においても同様である）。つぎに、「悪い」と回答した 8 名の理由には、「アート作品」、「こへび隊の活動」、「来訪者」があるが、どれかが高いわけではない。悪い理由の「その他」には、地域環境との不調和、ボランティアとディレクターに対するものがあつた。

問 1-3 では、芸術祭が地域の歴史を反映したものかどうかを質問した。「反映している」と回答した地域住民は 21.1%である。他方、「反映していない」と回答した住民が 26.4%と、全体の 1/4 超存在する。問 1-4 では、芸術祭が新しい魅力を生み出したかどうかを質問した。「生み出した」と回答した割合は全体の 47.1%で半分弱存在する。問 1-5 では、新しい魅力の内容について質問した。新しい魅力を「生み出した」と回答した住民（228）から、その理由に回答した（欠損値（7）を除いた）221 を対象とした。「アート作品」、「来訪者との交流」、「ステージ施設」が回答者の過半数から回答を得ており、「アーティストとの交流」も 41.2%ある。「こへび隊との交流」を魅力としたのは 1/4 超程度である。理由の「その他」には女性の活躍等が挙げられた。問 1-6 では、芸術祭の継続について質問した。「賛成する」と回答した割合は全体の 50.5%と、半数が継続開催に賛成した。他方、「賛成しない」割合は 8.1%である。

すべての設問について、06 調査と世帯基準には統計的に有意な違いが確認されなかつた。

問 1-7 では、芸術祭について意見（自由記述）を求めた（自由記述は整理して文末に掲載した）。まず、アート作品については賛否両論ある。アート作品に対して、昔を思い出すとといった良い評価がある一方で、現代アートに共感できないといった意見や当該地域とアートとの関係を問う意見は一定程度存在する。ただ、今回は一部の作品に批判が集中した。つぎに、芸術祭全般についての肯定的な意見としては、アート作品を媒介として広がった人々の対話・交流、地域内の活気が高まったこと、子どもや若者が集まって交流する機会が持てたこと、来訪者の増加、地域について情報発信できたこと、経済効果等が挙げられる。悪いイメージには、さらに、芸術祭が一部の人のためのイベントであるという疎外感、芸術祭が税金を投入して開催されることや会計の不透明性に対する反感、芸術祭への参加や関わりを強制されたことへの反感がある。また、芸術祭を肯定的に捉えたうえで、改善を促す要望が多くみられた。具体的には、地域住民のアート作品制作等への参加、路上の会場案内の改善、地域同士の連携や交流、地域住民への情報提供、積極的な地域外へのアピールを求める意見があつた。さらに、こへび隊のマナーの改善、アート作品の維持管理の人的・金銭的負担の増大、地域を限定した開催、中山間地域活性化策としての芸術祭の限界を指摘する意見もある。また、一部に高齢や交通手段がないという制約のために、芸術祭との関係がもてないといった意見もみられた。

問 1-1 芸術祭に対するイメージ

問1-1	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
良い	141	(53.8)	120	(45.8)	1	(0.4)	262	54.1
どちらともいえない	89	(51.1)	83	(47.7)	2	(1.1)	174	36.0
悪い	4	(44.4)	5	(55.6)	0	(0.0)	9	1.9
無回答	18	(46.2)	20	(51.3)	1	(2.6)	39	8.1
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$$\chi^2(2)=0.482, p=0.786$$

問 1-2 良いイメージの理由 (多重回答)

問1-2:良い理由	回答数	%	回答者%
アート作品	170	26.4	65.9
アーティストの活動	90	14.0	34.9
こへび隊の活動	86	13.4	33.3
地域住民の対応	136	21.2	52.7
行政の対応	34	5.3	13.2
来訪者	117	18.2	45.3
その他	10	1.6	3.9
合計	643	100.0	249.2

問 1-2 悪いイメージの理由 (多重回答)

問1-2:悪い理由	回答数	%	回答者%
アート作品	2	16.7	25.0
アーティストの活動	0	0.0	0.0
こへび隊の活動	2	16.7	25.0
地域住民の対応	0	0.0	0.0
行政の対応	1	8.3	12.5
来訪者	2	16.7	25.0
その他	5	41.7	62.5
合計	12	100.0	150.0

注：1.良いイメージの%は回答数合計（643）に対する割合，回答者%は回答者数（258）に対する割合。

2.悪いイメージの%は回答数合計（12）に対する割合，回答者%回答者数（8）に対する割合。

3.良い（悪い）理由の249.9%（150%）は，回答者1人につき平均で2.5（1.5）程度の理由を選択したことを示す。

問 1-3 歴史と伝統を反映しているか

問1-3	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
思う	62	(60.8)	40	(39.2)	0	(0.0)	102	21.1
どちらともいえない	101	(49.3)	102	(49.8)	2	(1.0)	205	42.4
思わない	66	(51.6)	61	(47.7)	1	(0.8)	128	26.4
無回答	23	(46.9)	25	(51.0)	1	(2.0)	49	10.1
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$$\chi^2(2)=3.394, p=0.183$$

問 1-4 新しい地域の魅力を生み出したか

問1-4	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
思う	119	(52.2)	109	(47.8)	0	(0.0)	228	47.1
どちらともいえない	80	(53.0)	69	(45.7)	2	(1.3)	151	31.2
思わない	34	(54.8)	27	(43.5)	1	(1.6)	62	12.8
無回答	19	(44.2)	23	(53.5)	1	(2.3)	43	8.9
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$$\chi^2(2)=0.265, p=0.876$$

問 1-5 新しい地域の魅力を生み出したか (多重回答)

問1-5	回答数	%	回答者%
アート作品	139	25.5	62.9
ステージ施設	115	21.1	52.0
アーティストとの交流	91	16.7	41.2
こへび隊との交流	62	11.4	28.1
来訪者との交流	128	23.5	57.9
何もない	2	0.4	0.9
その他	8	1.5	3.6
合計	545	100.0	246.6

注：新しい魅力を生み出したと回答者を対象に集計。%は回答数合計（545），回答者%は回答者数（221）に対する割合。

問 1-6 芸術祭が今後も継続されることについて

問1-6	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
賛成する	121	(50.0)	120	(49.6)	1	(0.4)	242	50.0
どちらともいえない	82	(51.9)	73	(46.2)	3	(1.9)	158	32.6
賛成しない	24	(61.5)	15	(38.5)	0	(0.0)	39	8.1
無回答	25	(55.6)	20	(44.4)	0	(0.0)	45	9.3
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$$\chi^2(2)=1.777, p=0.411$$

4. 設問2 大地の芸術祭を通じた地域の変化について

設問2では、大地の芸術祭を通じて起こった地域の変化について調査した。

問2-1では、地域の芸術祭への協力の程度について調査した。これにはサンプルによる差が確認された。06調査サンプルのほうが「非常に協力的」であると回答した割合がかなり高い。この違いは地域におけるアート作品の設置の有無が関連している可能性がある。全体で見ると、地域が芸術祭に対して「ある程度協力的」と回答した割合は全体の43.8%で、「非常に協力的」と合わせて、半分超の55.2%の住民が、地域が芸術祭に協力したと回答した。一方で、「あまり協力的でない」と回答した割合は全体の13.4%であった。

問2-2では、芸術祭が地域にどのような変化をもたらしたかを調査した。「好ましい変化」の回答は26.2%と「好ましくない変化」はわずか2.3%にすぎない。好ましい変化も好ましくない変化もないという割合が60%超と圧倒的に多い。

まず、「好ましい変化」と回答した127名のうち、その理由に回答した122名の「好ましい」理由をみよう。問2-3より、「地域住民の対応」と「アート作品」が54.1%と同率で、「来訪者」、「アーティストの活動」が50%弱で次いで高い。「こへび隊の活動」は30%程度である。「その他」には、回を追うごとに芸術祭を通じて関わる人が増えたこと、作家等と地域住民との交流の機会等が挙げられた。良い理由の回答者%の合計254.9%は、回答者1人につき平均で2.5程度の理由を選択したことを示している。つぎに、「好ましくない変化」と回答した11名の理由をみよう。回答数が少ないこともあり、「こへび隊の活動」以外のすべてに好ましくない理由があるが、何かが高いというわけではない。回答者1人につき平均で1.3程度の好ましくない理由を選択した。

問2-4では、芸術祭を通じた地域の変化として7つの地域内の変化を調査した。これにはサンプルによる差が確認された。06調査サンプルのほうが「増えた」と回答した割合が6ポイント程度から最大で18ポイント程度高い。特に、「女性の活躍(D)」と「地域の活気(F)」の差が高く、これらは1%有意水準、「A地域活動」と「C挨拶会話」は5%有意水準で独立であるという帰無仮説を棄却した。全サンプルでは、「増えた」の回答割合は、「女性の活躍(D)」と「地域の活気(F)」で20%を上回った。その他は10%台前半である。

さらに、これらの変化は2011年12月に実施したプレテストから、平地と山間地での地域差が大きいことが明らかになっている(詳細は鷲見2012を参照)。そのため、芸術祭を通じた地域の変化は、地域差や地域におけるアート作品の設置の有無を考慮する必要がある。

問2-1 地域は芸術祭に協力的か

問2-1	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
非常に協力的である	46	(83.6)	9	(16.4)	0	(0.0)	55	11.4
ある程度協力的である	131	(61.8)	79	(37.3)	2	(0.9)	212	43.8
どちらともいえない	29	(31.5)	62	(67.4)	1	(1.1)	92	19.0
あまり協力的でない	25	(38.5)	40	(61.5)	0	(0.0)	65	13.4
まったく協力的でない	6	(25.0)	17	(70.8)	1	(4.2)	24	5.0
無回答	15	(41.7)	21	(58.3)	0	(0.0)	36	7.4
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(4)=56.688, p=0.000$

問 2-2 芸術祭がもたらした地域の変化

問2-2	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
好ましい変化	79	(62.2)	48	(37.8)	0	(0.0)	127	26.2
どちらともいえない	149	(49.2)	151	(49.8)	3	(1.0)	303	62.6
好ましくない変化	5	(45.5)	6	(54.5)	0	(0.0)	11	2.3
無回答	19	(44.2)	23	(53.5)	1	(2.3)	43	8.9
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$$\chi^2(2)=5.905, p=0.052$$

問 2-3 好ましい変化の理由 (多重回答)

問2-3:好ましい変化	回答数	%	回答者%
アート作品	66	21.2	54.1
アーティストの活動	59	19.0	48.4
こへび隊の活動	38	12.2	31.1
地域住民の対応	66	21.2	54.1
行政の対応	17	5.5	13.9
来訪者	60	19.3	49.2
その他	5	1.6	4.1
合計	311	100.0	254.9

問 2-3 好ましくない変化の理由 (多重回答)

問2-3:好ましくない変化	回答数	%	回答者%
アート作品	2	14.3	18.2
アーティストの活動	2	14.3	18.2
こへび隊の活動	0	0.0	0.0
地域住民の対応	1	7.1	9.1
行政の対応	3	21.4	27.3
来訪者	3	21.4	27.3
その他	3	21.4	27.3
合計	14	100.0	127.3

注: 1.好ましい変化の%は回答数合計(311)に対する割合, 回答者%は回答者数(127)に対する割合.

2.好ましくない変化の%は回答数合計(14)に対する割合, 回答者%は回答者数(11)に対する割合.

3.回答者1人につき平均で2.5(1.3)程度の好ましい(好ましくない)理由を選択した.

問 2-4 芸術祭が地域にもたらした具体的な変化

①06 調査

問2-4	A.地域活動		B.参加人数		C.挨拶・会話		D.女性の活躍		E.高齢者の活躍		F.活気		G.まとまり	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	48	19.0	43	17.1	49	19.4	76	30.2	39	15.5	71	28.2	39	15.5
変わらない	180	71.4	183	72.6	179	71.0	151	59.9	181	71.8	156	61.9	189	75.0
減った	3	1.2	3	1.2	2	0.8	1	0.4	9	3.6	5	2.0	4	1.6
不明	21	8.3	23	9.1	22	8.7	24	9.5	23	9.1	20	7.9	20	7.9
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0

②世帯基準

問2-4	A.地域活動		B.参加人数		C.挨拶・会話		D.女性の活躍		E.高齢者の活躍		F.活気		G.まとまり	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	25	11.0	22	9.6	24	10.5	27	11.8	21	9.2	33	14.5	21	9.2
変わらない	176	77.2	175	76.8	176	77.2	166	72.8	171	75.0	163	71.5	176	77.2
減った	1	0.4	1	0.4	2	0.9	4	1.8	6	2.6	5	2.2	5	2.2
不明	26	11.4	30	13.2	26	11.4	30	13.2	30	13.2	27	11.8	26	11.4
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0.4386	0	0	0	0	0	0
合計	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0

注: 1.2 つ以上の選択項目に回答があったものを「不明」として分類した.

2.「D 女性の活躍」($\chi^2(2)=23.685, p=0.000$)と「F 地域の活気」($\chi^2(2)=11.880, p=0.003$)は1%有意水準で、「A 地域活動」($\chi^2(2)=6.378, p=0.041$)と「C 挨拶会話」($\chi^2(2)=6.081, p=0.033$)は5%有意水準で帰無仮説を棄却した.

5. 設問3 大地の芸術祭を通じた個人の変化について

設問3では、大地の芸術祭を通じて起こった個人の生活の変化について調査した。

問3-1では、地域住民個人の芸術祭との関わりについて調査した。「作品やイベントの見学」が最も高く、半数以上の56.8% (242/426)の回答者が作品を見学している。ついで、「地域での行事協力」が28.4%、「アーティストへの協力」が16.9%である。一方、「個人的関わりなし」は回答者の31.0%で一定程度ある。「過去にはあったが現在はない」も11.7%いる。「その他」には、アーティストや来訪者の宿泊の提供が挙げられた。回答者%の合計201.6%は、住民は平均して2つの方法で芸術祭との関わりを持っていることを示している。

問3-2では、芸術祭と関わりをもったきっかけを質問した。「興味があった」が最も高く、回答者の37.8% (108/286)が回答している。ついで、「集落で頼まれた」が35.0%と高い。「その他」には、(集落で頼まれたのではなく)地域の代表等(区長や役員)の立場から地域をリードしてきたケースが7件程度あり、さらに(単なる興味ではなく)地域活性化のために自主的に参加したというケースが4件あった。問3-1と問3-2のクロス集計より、芸術祭との関わりとそのきっかけについてみると、まず、「作品見学」がきっかけとなった理由は、「興味があった」、「集落で頼まれた」、「行政に誘われた」、「家族に誘われた」が高い。特に、集落や行政に頼まれたからというきっかけは、その他の関わりでも高い。つぎに、「地域での芸術祭関連行事への協力」というきっかけの理由は、「集落で頼まれた」が最大であるが、「興味があった」というきっかけが次いで高い。きっかけの「興味があった」という回答は、作品見学、地域行事やアーティストへの協力、ワークショップへの参加で高く、地域住民の自発性が確認できる。

問3-3では、住民に芸術祭の活動にどの程度協力したかを質問した。これにはサンプルによる差が現れた(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。06調査の住民ほど「積極的に協力」したと回答している。全体で見ると、「まったく協力していない」割合は30%で、それ以外の住民は何らかのかたちで協力している。「積極的に協力」と「他人と同じくらい協力」を合わせると、41.9%が前向きに参加している。

問3-4では、芸術祭を通じて新しい知り合いができたかどうかを聞いた。27.9%が新しい友人ができたと回答した。これにはサンプルによる差が現れた(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。芸術祭に積極的に参加した06調査サンプルのほうが新しい友人が「できた」と回答した割合が高い。問3-5より、新しい友人ができたと回答した135名の45.2%が新しい知り合いを「アーティスト」と回答した。ついで、「こへび隊」、「来訪者」、「妻有地域の人」の順で回答が多く、芸術祭は地域外の人々とのつながりを持つきっかけとなっている。「その他」には、アーティストのアシスタント等が挙げられた。回答者%の合計168.1%から、回答者1人につき平均で1.7程度を選択しており、複数の新しい知り合いができたことを示している。

問3-6では、芸術祭を通じた個人の生活の変化として12項目について調査した。全体とみると、「増えた」の回答割合は、「生活面での協力(A)」、「挨拶・会話(C)」、「地域への愛着(K)」、「地域の将来(L)」が10%を上回る。特に「地域の将来」については20%弱と高い。それ以外は5%以上10%未満である。芸術祭を通じて、同じ世代や職業の人々との交流よりも、異なる世代や職業との交流が増えた割合が高い。「生活面での協力(A)」、「異職業の人との交流(H)」、「他地域の人との交流(I)」にはサンプルに違い(5%有意水準)がみられ、「増えた」と回答し

た割合が 06 調査サンプルのほうが 6 ポイント弱から 8 ポイント弱程度高い。

問 3-1 芸術祭との個人的な関わり（多重回答）

問3-1	回答数	%	回答者%
作品やイベントの見学	242	28.3	56.8
勤務先の仕事	37	4.3	8.7
地域での行事協力	122	14.3	28.6
資産の貸与	17	2.0	4.0
ワークショップ参加	38	4.4	8.9
来訪者への作品案内	56	6.5	13.1
作品管理	41	4.8	9.6
アーティストへの協力	72	8.4	16.9
こへび隊への協力	44	5.1	10.3
その他	5	0.6	1.2
過去はあったが現在はなし	50	5.8	11.7
個人的関わりなし	132	15.4	31.0
合計	856	100.0	200.9

注：1.%は回答数合計（856）に対する割合。回答者%は回答者数（426）に対する割合。多重回答形式。
2.回答者 1 人につき平均で 2 程度の芸術祭との関わりを選択。

問 3-2 芸術祭との関わりのかきつけ（多重回答）

問3-2	回答数	%	回答者%
集落で頼まれた	100	23.6	35.0
勤務先の仕事	41	9.7	14.3
友人に誘われた	33	7.8	11.5
家族に誘われた	35	8.3	12.2
行政に誘われた	49	11.6	17.1
作家に誘われた	18	4.2	6.3
こへび隊に誘われた	13	3.1	4.5
興味があった	108	25.5	37.8
その他	27	6.4	9.4
合計	424	100.0	148.3

注：1.%は回答数合計（424）に対する割合。回答者%は回答者数（286）に対する割合。多重回答形式。
2.回答者 1 人につき平均で 1.5 程度のかきつけを選択。

問 3-1 と問 3-2 のクロス集計：芸術祭との関わりとききつけの関係

問3-2 ききつけ	問3-1 芸術祭との関わり					
	作品	仕事	地域行事	資産	ワークショップ	来訪者
集落で頼まれた	69	6	65	7	16	26
勤務先の仕事	25	29	10	1	4	6
友人に誘われた	26	6	10	0	5	8
家族に誘われた	33	7	10	1	5	7
行政に誘われた	35	4	35	6	14	19
作家に誘われた	9	1	10	3	6	4
こへび隊に誘われた	8	0	7	4	2	3
興味があった	91	14	37	3	20	24
その他	15	0	15	1	9	9
回答者計	204	34	116	15	38	53
回答者割合%	71.6	11.9	40.7	5.3	13.3	18.6

問3-2 ききつけ	問3-1 芸術祭との関わり					合計
	作品管理	アーティスト	こへび隊	その他	現在無し	
集落で頼まれた	18	34	18	0	20	100
勤務先の仕事	7	9	2	0	6	41
友人に誘われた	5	7	4	0	2	33
家族に誘われた	2	4	3	1	3	35
行政に誘われた	14	19	14	1	15	49
作家に誘われた	8	11	7	0	4	18
こへび隊に誘われた	0	6	10	0	2	13
興味があった	11	31	14	2	14	107
その他	7	12	6	2	5	27
回答者計	37	71	40	5	44	285
回答者割合%	13.0	24.9	14.0	1.8	15.4	-

注：多重回答形式。

問3-3 芸術祭に積極的に参加したか

問3-3	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
積極的に協力	41	(64.1)	23	(35.9)	0	(0.0)	64	13.2
他人と同じくらい協力	91	(65.5)	48	(34.5)	0	(0.0)	139	28.7
他人より協力していない	36	(46.2)	41	(52.6)	1	(1.3)	78	16.1
まったく協力していない	51	(35.2)	91	(62.8)	3	(2.1)	145	30.0
無回答	33	(56.9)	25	(43.1)	0	(0.0)	58	12.0
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=29.393, p=0.000$

問3-4 新しい知り合いができたか

問3-4	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
新しい友人ができた	90	(66.7)	45	(33.3)	0	(0.0)	135	27.9
できなかった	129	(44.8)	155	(53.8)	4	(1.4)	288	59.5
無回答	33	(54.1)	28	(45.9)	0	(0.0)	61	12.6
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(1)=16.553, p=0.000$

問3-5 芸術祭を通じた新しい知り合い (多重回答)

問3-5	回答数	%	回答者%
地域内の人	33	14.5	24.4
妻有圏域内の人	36	15.9	26.7
こべび隊	49	21.6	36.3
アーティスト	61	26.9	45.2
来訪者	40	17.6	29.6
その他	8	3.5	5.9
合計	227	100.0	168.1

注：1.%は回答数合計(227)に対する割合。回答者%は回答者数(135)に対する割合。多重回答形式。
2.回答者1人につき平均で1.7程度の新しい知り合いを選択。

問3-6 芸術祭が個人の生活にもたらした具体的な変化

①06調査

問3-6	A.生活面での協力		B.活動への参加		C.挨拶・会話		D.付き合い		E.同世代との交流		F.異世代との交流	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	35	13.9	23	9.1	34	13.5	29	11.5	20	7.9	31	12.3
変わらない	190	75.4	200	79.4	193	76.6	196	77.8	204	81.0	192	76.2
減った	3	1.2	4	1.6	1	.4	1	0.4	4	1.6	2	.8
無回答	24	9.5	25	9.9	24	9.5	26	10.3	24	9.5	27	10.7
合計	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0

問3-6	G.同職業との交流		H.異職業との交流		I.他地域の人との交流		J.信頼できる人数		K.地域への愛着		L.地域の将来	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	18	7.1	30	11.9	33	13.1	21	8.3	44	17.5	54	21.4
変わらない	201	79.8	190	75.4	189	75.0	200	79.4	177	70.2	165	65.5
減った	5	2.0	3	1.2	3	1.2	3	1.2	3	1.2	3	1.2
無回答	28	11.1	29	11.5	27	10.7	28	11.1	28	11.1	30	11.9
合計	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0	252	100.0

②世帯基準

問3-6	A.生活面での協力		B.活動への参加		C.挨拶・会話		D.付き合い		E.同世代との交流		F.異世代との交流	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	14	6.1	17	7.5	23	10.1	14	6.1	13	5.7	16	7.0
変わらない	190	83.3	189	82.9	181	79.4	191	83.8	191	83.8	189	82.9
減った	3	1.3	3	1.3	1	.4	2	0.9	4	1.8	4	1.8
無回答	21	9.2	19	8.3	23	10.1	21	9.2	20	8.8	19	8.3
合計	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0

問3-6	G.同職業との交流		H.異職業との交流		I.他地域の人との交流		J.信頼できる人数		K.地域への愛着		L.地域の将来	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
増えた	11	4.8	14	6.1	15	6.6	11	4.8	30	13.2	39	17.1
変わらない	189	82.9	184	80.7	188	82.5	190	83.3	174	76.3	163	71.5
減った	7	3.1	6	2.6	4	1.8	5	2.2	3	1.3	4	1.8
無回答	21	9.2	24	10.5	21	9.2	22	9.6	21	9.2	22	9.6
合計	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0	228	100.0

注：「生活面での協力(A)」($\chi^2(2)=8.005, p=0.018$)、「異職業の人との交流(H)」($\chi^2(2)=6.081, p=0.048$)、「他地域の人との交流(I)」($\chi^2(2)=6.156, p=0.046$)は5%有意水準で帰無仮説を棄却した。

6. 設問4 居住する地域について

設問4では、居住地域の状況を地域住民がどう感じているかについて調査した。これは、ソーシャル・キャピタルの調査として位置付けられる。

まず、問4-1ではアート作品の設置の有無について質問した。この設問は、今後アート作品の設置の有無から、芸術祭の影響を評価するためのものである。地域にアート作品が「設置されている」と回答した割合が55.0%である。これにはサンプルによる差が確認され、06調査サンプルほど作品が「設置されている」と回答した割合が高い(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。06調査の対象集落のほとんどが06年時点において作品設置集落であることを反映している。

つぎに、問4-2以降は、ソーシャル・キャピタルの調査として、地域内外の人々の交流、地域内の人々への信頼、まとめ、地域への愛着について質問した。

問4-2では、地域内の住民同士の交流があるかどうかについて質問した。「ある程度存在する」と回答した割合は全体の55.8%と最も高く、「とても存在する」と回答した割合を合わせると、75.4%に達する。06調査サンプルほど地域内の住民同士の交流があると回答した割合が高い(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。問4-3では、地域には他の地域の人たちとの交流があるかどうかを質問した。他地域の人との交流は、「ある程度思う」と回答した割合が52.3%と最も高く、「とても存在する」と合わせると59.7%になる。06調査サンプルほど他地域の住民との交流があると回答した割合が高い(5%有意水準で帰無仮説を棄却)。

問4-4では、地域で信頼できる人の数について質問した。「半分程度の人」は信頼できると回答した割合が35.1%と最も高い。ついで、「少数の人」が31.6%、「ほとんどすべての人」が20.0%あり、半分以上の人を信頼できると回答した割合は55.1%になる。06調査サンプルほど、「ほとんどすべての人」が信用できると答えた割合が高い(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。

問4-5では、居住する地域のまとめについて質問した。「ある程度ある」と回答した割合は49.4%であり、「とてもある」(15.1%)と合わせると64.5%となる。これについてはサンプルによる違いが確認された。06調査サンプルほど、まとめが「とてもある」と答えた割合が高い(1%有意水準で帰無仮説を棄却。クロス集計表は省略)。

問4-6では、居住する地域への愛着について質問した。「ある程度ある」と回答した割合は46.1%であり、「とてもある」(30.6%)と合わせると、76.7%とかなり高い。問4-7では、居住する地域への満足について質問した。「ある程度ある」と回答した割合は58.5%であり、「とてもある」(11.4%)と合わせると、69.9%と高い。問4-8では、居住する地域に今後も住み続けたいかどうかについて質問した。「住み続けたい」と回答した割合が58.7%であった。地域への愛着、満足、今後の居住意向については、サンプルによる差が確認されなかった。

これらの結果は、地域住民の交流、地域への愛着や満足度の高さを裏付ける結果といえる一方で、地域に住み続けざるを得ないという意見も複数みられた。また、地域に愛着があっても、中山間地域などの地理的条件や高齢化など現状から、完全に満足できるとはいえない状況があると推察できる。

問 4-1 アート作品の設置

問4-1	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
設置されている	183	(68.8)	82	(30.8)	1	(0.4)	266	55.0
設置されていない	38	(23.8)	119	(74.4)	3	(1.9)	160	33.1
撤去された	7	(63.6)	4	(36.4)	0	(0.0)	11	2.3
わからない	1	(16.7)	5	(83.3)	0	(0.0)	6	1.2
無回答	23	(56.1)	18	(43.9)	0	(0.0)	41	8.5
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(2)=83.102, p=0.000$

問 4-2 地域の住民同士の交流

問4-2	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
とても思う	69	(72.6)	25	(26.3)	1	(1.1)	95	19.6
ある程度思う	132	(48.9)	136	(50.4)	2	(0.7)	270	55.8
どちらともいえない	16	(34.0)	30	(63.8)	1	(2.1)	47	9.7
あまり思わない	10	(35.7)	18	(64.3)	0	(0.0)	28	5.8
まったく思わない	2	(40.0)	3	(60.0)	0	(0.0)	5	1.0
無回答	23	(59.0)	16	(41.0)	0	(0.0)	39	8.1
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(4)=26.787, p=0.000$

問 4-3 他の地域の人たちとの交流

問4-3	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
とても思う	22	(61.1)	14	(38.9)	0	(0.0)	36	7.4
ある程度思う	140	(55.3)	110	(43.5)	3	(1.2)	253	52.3
どちらともいえない	42	(46.2)	49	(53.8)	0	(0.0)	91	18.8
あまり思わない	20	(35.7)	35	(62.5)	1	(1.8)	56	11.6
まったく思わない	3	(42.9)	4	(57.1)	0	(0.0)	7	1.4
無回答	25	(61.0)	16	(39.0)	0	(0.0)	41	8.5
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(4)=9.649, p=0.047$

問 4-4 地域で信頼できる人の数

問4-4	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
ほとんどすべての人	61	(62.9)	35	(36.1)	1	(1.0)	97	20.0
半分程度の人	85	(50.0)	84	(49.4)	1	(0.6)	170	35.1
少数の人	64	(41.8)	88	(57.5)	1	(0.7)	153	31.6
誰もいない	7	(70.0)	2	(20.0)	1	(10.0)	10	2.1
無回答	35	(64.8)	19	(35.2)	0	(0.0)	54	11.2
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=13.469, p=0.004$

問 4-5 地域にまとまりがあるか

問4-5	回答数	%
とても思う	73	15.1
ある程度思う	239	49.4
どちらともいえない	78	16.1
あまり思わない	50	10.3
まったく思わない	3	0.6
無回答	41	8.5
合計	484	100.0

$\chi^2(3)=14.547, p=0.006$

問 4-6 地域への愛着

問4-6	回答数	%
とても愛着がある	148	30.6
ある程度ある	223	46.1
どちらともいえない	49	10.1
あまりない	26	5.4
まったくない	2	0.4
無回答	36	7.4
合計	484	100.0

$\chi^2(4)=2.000, p=0.736$

問 4-7 地域に満足しているか

問4-7	回答数	%
とても満足がある	55	11.4
ある程度ある	283	58.5
どちらともいえない	58	12.0
あまりない	45	9.3
まったくない	5	1.0
無回答	38	7.9
合計	484	100.0

$\chi^2(4)=5.469, p=0.242$

問 4-8 地域にこれからも住み続けたいか

問4-8	回答数	%
住み続けたい	284	58.7
どちらともいえない	134	27.7
住み続けたくない	25	5.2
不明	2	0.4
無回答	39	8.1
合計	484	100.0

$\chi^2(4)=1.329, p=0.514$

注：問 4-8 は、2 つ以上の選択項目に回答があったものを「不明」として分類した。

7. 設問5 社会に対する意識について

設問5では、地域住民の社会参加、社会に対する意識について調査した。これは、ソーシャル・キャピタルの調査として位置付けられる。

まず、問5-1から問5-3では地域住民の様々な社会参加の状況について調査した。

問5-1では、住民の地域共同活動への参加状況について質問した。「可能な範囲で参加」が57.0%で最多であり、「積極的に参加」と合わせて76.0%とかなり高い。問5-2では、ボランティアや市民活動への参加状況について質問した。「可能な範囲で参加」が39.3%で最多であり、「積極的に参加」と合わせると44.7%である。ただし、地域共同活動への参加より30ポイント程度低い。「まったく参加していない」割合は19.4%である。問5-3では、スポーツや趣味活動への参加状況について質問した。「可能な範囲で参加」が39.5%で最多であり、「積極的に参加」と合わせると46.1%となる。市民活動等と同様の傾向がある。これらの社会参加については、サンプルによる差が確認されなかった。

つぎに、問5-4では一般信頼について、問5-5、問5-6では地域住民同士のつきあいの程度(質)と範囲について調査した。

問5-4では、一般に人は信頼できるかについて質問した。「半分程度の人」と回答した割合が39.9%と最多で、「ほとんどすべての人」と「半分程度の人」を合わせた割合は54.4%と高い半数を超える。

問5-5では、地域の人とのつきあいの程度について質問した。「日常的な立ち話」と回答した割合が41.5%で、「生活面での協力」が35.3%である。06調査サンプルほど、「生活面での協力がある」と回答した割合が高い(5%有意水準で帰無仮説を棄却)。問5-6では、つきあいや交流のある地域内の人数については質問した。「半分程度の人」と回答した割合が34.3%と最多である。「ほとんどすべての人」を合わせた割合は55.2%と半数を超える。06調査サンプルほど、「ほぼすべての人」と回答した割合が高い(1%有意水準で帰無仮説を棄却)。

最後に、問5-7では互酬性の規範について調査した。問5-7では、地域のためになることのために自身の時間や労力を提供することに対して賛成するかどうかを質問したところ、「賛成する」と回答した割合は62.2%となった。芸術祭に関する設問の記述欄にも、地域のための自発的な協力・参加という記述がみられた。サンプルによる差が確認されなかった。

これらの結果は、地域住民の高い社会参加や、住民同士の信頼やつながりの強さを裏付ける結果といえる。ただし、これらについても、2011年12月に実施したプレテストから、地域差が大きいたことが明らかになっている(詳細は鷲見(2012)を参照)。

問5-1 地域共同活動への参加

問5-1	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
積極的に参加	56	(60.9)	36	(39.1)	0	(0.0)	92	19.0
可能な範囲で	131	(47.5)	143	(51.8)	2	(0.7)	276	57.0
あまり参加しない	24	(52.2)	20	(43.5)	2	(4.3)	46	9.5
まったく参加しない	11	(61.1)	7	(38.9)	0	(0.0)	18	3.7
活動自体ない	1	(33.3)	2	(66.7)	0	(0.0)	3	0.6
無回答	29	(59.2)	20	(40.8)	0	(0.0)	49	10.1
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

問 5-2 ボランティアや市民活動への参加

問5-2	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
積極的に参加	18	(69.2)	8	(30.8)	0	(0.0)	26	5.4
可能な範囲で	104	(54.7)	84	(44.2)	2	(1.1)	190	39.3
あまり参加しない	55	(45.8)	64	(53.3)	1	(0.8)	120	24.8
まったく参加しない	46	(48.9)	47	(50.0)	1	(1.1)	94	19.4
無回答	29	(53.7)	25	(46.3)	0	(0.0)	54	11.2
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=5.739, p=0.125$

問 5-3 スポーツ、趣味活動への参加

問5-3	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
積極的に参加	17	(53.1)	15	(46.9)	0	(0.0)	32	6.6
可能な範囲で	97	(50.8)	93	(48.7)	1	(0.5)	191	39.5
あまり参加しない	67	(52.8)	59	(46.5)	1	(0.8)	127	26.2
まったく参加しない	41	(50.6)	38	(46.9)	2	(2.5)	81	16.7
無回答	30	(56.6)	23	(43.4)	0	(0.0)	53	11.0
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=0.155, p=0.985$

問 5-4 一般に他人を信頼できるか

問5-4	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
ほとんどすべての人	36	(51.4)	33	(47.1)	1	(1.4)	70	14.5
半分程度の人	103	(53.4)	89	(46.1)	1	(0.5)	193	39.9
少数の人	68	(46.9)	76	(52.4)	1	(0.7)	145	30.0
誰もいない	5	(45.5)	5	(45.5)	1	(9.1)	11	2.3
無回答	40	(61.5)	25	(38.5)	0	(0.0)	65	13.4
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=1.401, p=0.705$

問 5-5 地域の人とのつきあい：程度

問5-5	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
生活面でも協力	102	(59.6)	68	(39.8)	1	(0.6)	171	35.3
日常的な立ち話	95	(47.3)	105	(52.2)	1	(0.5)	201	41.5
あいさつ程度	27	(46.6)	29	(50.0)	2	(3.4)	58	12.0
つきあいはない	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	0
無回答	28	(51.9)	26	(48.1)	0	(0.0)	54	11.2
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=6.252, p=0.044$

問 5-6 地域の人とのつきあい：人数

問5-6	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
ほぼすべての人	68	(67.3)	33	(32.7)	0	(0.0)	101	20.9
半分程度の人	77	(46.4)	87	(52.4)	2	(1.2)	166	34.3
少数の人	75	(47.8)	80	(51.0)	2	(1.3)	157	32.4
ほとんどない	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	1	0.2
無回答	32	(54.2)	27	(45.8)	0	(0.0)	59	12.2
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=12.440, p=0.006$

問 5-7 地域のための時間や労力の提供

問5-7	06年調査	(%)	世帯基準	(%)	不明	(%)	合計	全体%
賛成する	153	(50.8)	147	(48.8)	1	(0.3)	301	62.2
どちらでもない	64	(52.9)	54	(44.6)	3	(2.5)	121	25.0
反対する	5	(83.3)	1	(16.7)	0	(0.0)	6	1.2
無回答	30	(53.6)	26	(46.4)	0	(0.0)	56	11.6
合計	252	(52.1)	228	(47.1)	4	(0.8)	484	100.0

$\chi^2(3)=2.697, p=0.260$

8. まとめ

単純集計の結果は以下の通り 3 点にまとめられる。

(1) 芸術祭に関する地域住民の評価

設問 1 より、芸術祭に関する地域住民の評価をまとめると、地域住民の半数以上は、大地の芸術祭に対して良い印象を持っており、芸術祭に対する悪いイメージは 2%程度でしかない。芸術祭が今後も継続することに対しても、多くの地域住民は肯定的に受け入れている。肯定的な評価には、アート作品やアーティスト、来訪者やこへび隊といった地域外からもたらされた変化に対するものが多いが、地域住民の対応も評価されている。一部の否定的な意見には、なぜ現代アートなのかという理解の難しさや、税金投入や会計の不透明性に対する不信感などがある。

現代アートは一般には受け入れられにくく、当初は地域住民から低い評価しか得られない。しかし、青木(2011)が指摘するように、来訪者が地域の資源や歴史、またそれらに基づいた現代アートを高く評価することによって、地域住民が次第に自らの地域や地域資源の価値を再評価し、現代アート（芸術祭）を新たな地域資源として評価するようになることが期待される。

また、芸術祭についての評価には、サンプルによる差が確認されなかった。

(2) 芸術祭を通じた地域や個人の生活の変化

芸術祭が肯定的に地域住民に受け入れられていることを裏付ける証拠が、芸術祭を通じた変化から明らかになっている。設問 2 から、地域の半数以上が芸術祭に協力的であり、地域に好ましい変化が起こったと回答した割合も高い。ただ、具体的な変化については、「変わらない」が 60%台から 70%台を占めている。そのなかでは、女性の活躍と地域内の活気が「増えた」と回答した割合が 20%を超えている。設問 3 から、芸術祭が個人の活動や生活に与えた影響についてみると、特に、芸術祭が異世代や地域を超えた人々の交流を促進した可能性を指摘できる。

芸術祭を通じた地域や個人の生活の変化には、サンプルによる差が確認された。芸術祭の作品設置集落を対象とした 06 調査サンプルのほうが、作品が設置されていない割合が高い世帯基準サンプルよりも、好ましい変化の割合が相対的に高い。

(3) 地域住民同士のつきあい・交流、信頼、社会参加、まとまりなどの状況

設問 4 と設問 5 から、地域住民同士のつきあい・交流、信頼、社会参加、地域への愛着やまとまりなどが、調査対象地域には高水準で存在していることが示された。

これらのソーシャル・キャピタルのうち、特につきあい・交流には、サンプルによる差が確認された。芸術祭の作品設置集落を対象とした 06 調査サンプルのほうが、地域住民のつきあいや交流の程度が相対的に高い。ただし、芸術祭との関係性をみるためには、地域差や地域におけるアート作品の設置の有無などを厳密に考慮する必要がある。

最後に、今後の分析における課題についてまとめる。

本調査のサンプルは、回答者属性が男性と高齢者に偏ったものとなった。これは、電話帳に

よる抽出の影響したものと考えられるため、抽出方法の工夫が次回以降の調査の課題である。この偏りのため、当地域では地域活動の中心が比較的高齢の人々であることから、その影響が大きく計測される可能性がある。さらに、2011年12月に実施したプレテストから、平地と山間地との地域差が大きいことが明らかになっている。したがって、今後の分析では、回答者属性や地域属性をコントロールすることが重要である。

本稿を含めた今後の研究の目的は、2000年以降、地域活性化を目的として継続的に開催されてきた大地の芸術祭が、地域活性化、つまりソーシャル・キャピタルの形成に寄与したかどうかを分析することである。2006年調査では、勝村ほか(2008)が、大地の芸術祭と地域づくりとの関係を表すクロス表を用いた分析ながら、芸術祭が住民ネットワークの構築や地域づくりに影響を持つという一定の関係性を導き出している。さらに、鷺見(2010)は、信頼、社会参加、地域のまとまりをソーシャル・キャピタルと定義して、アンケート調査項目の性質を考慮した順序プロビットモデルを用いて、大地の芸術祭が地域のソーシャル・キャピタルの形成に寄与したことを統計的に明らかにしている。2006年調査データを用いた鷺見(2010)との比較分析が今後の課題である。

参考文献

- 青木恵之祐(2011)「ビジュアルアートを活用した地域活性化のプロセスモデル」『文化経済学』第8巻第1号、文化経済学会
- 勝村文子ほか(2008)「住民によるアートプロジェクトの評価とその社会的要因—大地の芸術祭妻有トリエンナーレを事例として—」『文化経済学』第6巻第1号、文化経済学会
- 鷺見英司(2010)「中山間地域におけるアートイベントとソーシャル・キャピタル形成の要因分析」『新潟大学経済論集』第89巻第2010・I号
- 鷺見英司(2012)「越後妻有大地の芸術の地域活性化効果とソーシャル・キャピタルに関する調査研究」『新潟大学経済論集』第93巻第2012・I号
- 『日本経済新聞』(2012年12月15日朝刊、地方経済面：新潟)

(参考) 問 1-7 芸術祭について意見 (自由記述)

以下では、芸術祭についての自由意見を、問 1-1 : 芸術祭のイメージと問 1-6 : 芸術祭の継続の回答で分類して列挙する。

①芸術祭のイメージ : 良い, 今後の開催 : 賛成

1. 市街地住民が全員参加できるアートがほしい。そうすれば市街地がもっと芸術祭で盛り上がりと思う。
2. 近くでも知らなかった地域へ行く機会が増えた。
3. 回数を重ねるごとに充実したものとなっていると思う。残念ながら、案内看板の位置、明示が確実でないところも多い。これらを解消しながらステップアップを願う。
4. 来訪者にとって、2度、3度と来てみたくなる対応が必要。県外、市外の来訪者がアートめぐりをしやすい(わかりやすい)環境を整える。
5. 豪雪地域なので、冬期のアートの雪害防止の囲い作業等がたいへんになると思う。
6. 作品を作る場所が偏っている様な感じがする。
7. 道順が分かりづらいところが相当ある。工夫が出来ると思う。ボランティア、スタッフはたいへんだと思う。
8. 完成作品の状態及び展示物(材料)により、展示場所の検討が必要。
9. マスコミにもっともっと取り上げて宣伝出来たらと思う。例えば、有名人を利用するとか。
10. 地域住民の活気を感じます。
11. 前回よりは数多く見て回りたいたいと思いました。自分の感覚で見られるのがよい。
12. 回を重ねて PR が功を奏し外来客が増えたと思うが、保存ができない作品も多く、全体の作品数か思ったより増えない。作品を観光の資源とする場合、(可能な範囲で)保存性の高い作品に絞るべきだと思う。
13. 部落内に作品がないので協力を生まなかった。
14. 自分の住んでいる所には作品はありません。新聞等の写真を見るだけです。年をとって車には乗れませんので見られないのが残念です。
15. 積極的に芸術祭に参加している地域と参加していない地域との差が大きい。以前の作品の維持・発展にも差がある。地図は見やすいが、作品の位置に間違いがあった。外から初めて来る方には難しい。私としてはとても楽しんで巡っているし、これを機に近代アートに対する日本人(住民)の考え方が少しずつ変わっていけばと考えている。
16. 当地域では廃校(旧三省小学校)を宿泊施設として、アートフロントギャラリー(AFG)が利用しており、通年営業して一年を通して宿泊いただいている。特にこの5日目の期間中連日70人前後の宿泊予約があり、3,500~4,000人の宿泊者となっています。これにより地域の経済効果(食糧、野菜、人件費等)が大となっている。第一回から回を重ねるごとに地域の理解も深まってきて、今後とも継続を期待するところである。
17. 小部落で活気がないが、子供や若い人達が多く来て、活気があってとても良かった。
18. 今後も続けてほしい。
19. いいと思うものもあるが、まったくピンと外れな気もする。

20. 種々問題もあるが全体的には良い。
21. 交通アクセスが悪い。バスの増便をお願いします。看板を大きく。
22. 新規作品と旧作品の区別をしてほしい。
23. 山間地でこれだけの芸術祭が続いて実施されていることに驚いた。芸術祭に関連して集落内の対話が増えた感じがする。
24. 芸術というのはなかなか難しいのでよく分からないのがある。地域が広すぎて何があるのか実はよく分からない。
25. 作品が展示されている地域同士の情報交換がもっとあったほうがよい。作品に対する地域の取り組み方がばらばら。
26. 芸術はよく分からない。素人目ではきれいな作品など手の込んだ作品とかは何となく分かる。
27. 食わず嫌いの人が反対しているし、文句を言っている。来たお客さんというんな話をするだけでも、楽しいし、話すことによってこの地域を認識していただける。こんなに人が来ることはこの事業以外にない。この地域を少しでも知っていただけることはうれしいことだ。お金と時間があれば毎日でもこの芸術祭に関わっていたい。
28. 芸術祭が地域の活性化につながればと思ひ、私の家は村の開祖でもあるので積極的に応援している。今も私は多くの人達と交流をしている。
29. 来訪者が作品と一緒に写真に写りたがっている時は快くカメラのシャッターをおしてあげる。
30. 作品鑑賞をさせて頂きたいが、母親の介護に手がかかり、活動が思うようにならない。
31. 作品はなるべく常設展示にし、作品を増やす。(苦勞して作った作品なので残しておきたい。)
32. 私達の部落は3回目となるが、毎回変化がないと関心が薄れてきた。今度また芸術祭があるのだったら、アーティストさんといろいろ話し合ったいこうと思っている。
33. 看板をもう少しわかりやすくしてほしい。色々な方面から来る人にわかりやすくしてほしい。川西の芸術を見る際、十日町方面からはわかるが、小千谷方面からはわかりにくい等。曲がるところに看板を設置してほしい。迷子になる。不安になる。
34. 大地の芸術祭は5回目だが、毎開催100~150くらい鑑賞している。アーティストの前衛的な発想・創造・表現が豊かで観る人達を感心させます。次回の開催も希望します。
35. 地域に作品を作ったアーティスト及びその家族と深くかけがえのない交流をするに至っている。宿泊を伴う家族同士の交流が10年半継続している。
36. 初回の作品や取り組みには奇異な感じを受けたが、次第に地域の素材(空き家等)を生かしたものへと変化・発展してきており、受け入れやすいものになってきたと思う。地域のひととの交流も図られ地域から支持を得られるものになってきたと思う。これからも継続されていくことを望んでいる。
37. 地域の負担も大きいとその分良い体験になっていると、色々協力してみよう。

②芸術祭のイメージ：良い、今後の開催：どちらともいえない

1. 地域住民との話し合いが足りない。
2. 時代の推移といっても県内で一番後れをとっていたと思われる私達の地域がそれぞれ芸術祭によって多くの方々と交流もし、東南アジアの方々とも多く交流された方々もあると聞かされており、大きく前進できたことは素晴らしいと受けとめ感謝を申し上げたい。数多くある点をふまえて今後の勉強会の材料にしたいと思う。

3. 予算・維持管理費等, 雪国であり大変です。交流だけでなく定住者もほしいですね。
4. 大勢の人達が来ていただいて大変良いと思う。今年は特にたくさんおみえになっているので驚いている。作品もとても良いと思う。
5. 行政への負担が重すぎるきらいがある。今のままでは市民からの苦情が多くなる恐れがある。
6. こへび隊の人のマナーを良くしてほしい。地域性や文化等をもう少し勉強した中での地域に対する活動をしてほしい。新しい風は必要ですが、「郷に入れば郷に従え」のように、地域の伝統、文化を大切にしていきたいと思います。一生懸命、作業等を手伝いされる方と。交流を深めるためとただお茶のみ、食事等のみされ何もされない方、野菜等もらうことだけに一生懸命の様に見える方がある。人選を考えて頂きたいです。
7. 道路状況が悪い。誘導員等が必要。

③芸術祭のイメージ：良い、今後の開催：賛成しない

1. 都会の人には何が何だか理解しにくい作品が多く、来訪者（都会の人）に説明するのに苦慮する。

④芸術祭のイメージ：どちらともいえない、今後の開催：賛成する

1. 地域に作品がないので変わらない。
2. 山地の人達に活気が出てきたように感じる。芸術祭をもっと全国に発信できる何か、水、空気、食べ物だけではだめだと思う。何かみんなで考えるべきである。
3. 作品のポイント、メッセージが薄い。
4. もっと地域にお金がおちる工夫が必要。地域の人が本活動にあわせて、自分たちで考え努力して、お客様が喜んでお金を使用して頂くとおもしろい。
5. 協力したい気持ちはあるが、地域に対しての要請や情報がない。若者が来るという点では非常によい。地元で芸術祭の情報がない。
6. 各地域の青年会等に情報や協力要請を出せばもっと地域委との協力ははかれるのではないか。現状では一部の盛り上がりしかなかった。
7. キナーレの古着？はよくない。バックミュージックも最低です。前のように水を張っているほうがよかったです。
8. 年をとって管理が大変である。
9. 芸術祭側の動きが遅い。芸術祭側の人手不足。地域への配慮が足りない。アーティストと地域の交流はとてもいいことだと思う。

⑤芸術祭のイメージ：どちらともいえない、今後の開催：どちらともいえない

1. 障害者には仕方がないことだが、無理なところが多く、思うように足を運ぶことが出来ず残念。芸術祭のおかげで地域の子供達の吹奏楽やリコーダーを聞く機会があり、良かったと思う。
2. アーティストの方々が作品を作るだけでなく、その土地その土地の地域の活性化になるような芸術祭になればいいと思う。
3. 芸術祭をやるから「地域の人は手伝え」というように一方的に協力せよというのは考え違いしている。地区、地域にはそれぞれ生活がある。芸術そのものが理解できない。鉄板に穴を開けただけが芸術なのか？

4. 若者多くがウィークディに数多く来訪されることは、たいへん結構なことである。しかし職場・学校との関係が少し心配である。
5. クロス 10 の作品の服とシャツその他の洋服は、アジア、東南アジアの困っている人に送った方がよいと思う。作品は、1 千万円以上もかかっていると聞き、驚いています。
6. クロス 10 の服などは、東南アジアに送った方が良かった。お金が無駄だった。
7. 地域が作家を選びたい。前回はずごく良かったので今回も期待できると思ったが作家の芸術があまりにも期待外れなので、今回は全く地域も盛り上がりおもしろくない。
8. 「こんな田舎があるのか」と都会の人に発信できたかと思う。
9. 大地の芸術祭に関わっている人々は一生懸命に協力していられると思うが、私は今あまりこの催しには関心がない。
10. 作品の展示期間中は、人の交流も増え就業の場も増えている。しかし回を重ねてもボランティアに頼り、補助金頼りで山間地域の真の活性化にはほど遠い。芸術祭終了後しっかりと作品の保存管理がなされている作品もあるが、多くは荒れ放題の作品も多い。何もないより良いのではないかという意見もあるが、国として中山間地の将来をどう具体的に考えているのか明確で誘導的な政策が必要と考える。
11. 6～7 年前作品製作があったが、製作者からの感謝の心が淡いように思われた。
12. 地域住民に迷惑をかけないこと。作品の最終処分について良く考えよ！
13. ひっくるめて妻有というのは腹が立つ。松代、松之山は妻有ではない。
14. 市民がどの程度魅力を感じているか？ほんの一部でしかない気がする。
15. あまり興味がないのですみませんとしかいえない。
16. ①地域住民の中から必要性があって出てきたものではない。地域が抱えるより大事なことに資金・エネルギーを向ける方がいいと思う。②作品についていえば、ある一定の年月。持続的な鑑賞に値するものであるかどうか疑問が残る。
17. 私自身が住んでいる地域にある作品が大地の芸術と何の関わりがあるのかよくわからない。
18. 一般市民にはあまり関係ないと思うし、第一回の頃はこれが芸術なのか疑問に思った。
19. 数百年続いてきた農山村が今崩壊の崖っぷちに立たされている。どうしてか。リーマンショック、ギリシャ危機に代表される新自由主義経済は農山村など必要としない。20 年くらい前に一村一品運動もだめ、あれもこれもだめ、最後にといわれたリゾート開発もわずかな成功例以外は、消滅してしまった。今ここに大地の芸術祭、こへび隊との地域交流や、農村にないものを作るんだという試み（作品）は一定の刺激活力を与えるが、農村問題の基本的解決にはほど遠いといえる。したがって今後今の芸術祭を固定的またはマンネリ的に展開するのではなく、農村問題の真の解決に向けた国民的運動との共同が大切だといえる。
20. 十日町市の財政や商店にどれくらいプラスになっているのか知りたい。
21. あまり関心がなく、1ヶ所、2ヶ所と見学しても何を意味しているのか理解できなく、残念でした。
22. 集落の数が少ないので何事も協力的である。今後も同じくやれることをやりたい。
23. 今後さらに運営資金が厳しくなる中で、従来の手法を継続することはなかなか難しいと思う。たとえば松代地域に絞って集中的に開催するようなことも考えてもいいのかもしれない。山間集落では世話役となる区長（町内会長）の役割がたいへんである。区長選出は芸術祭の年にあたらないようにする動きがでている。

⑥芸術祭のイメージ：どちらともいえない、今後の開催：賛成しない

1. 作品の場所が広すぎてどこにあるのかわからない。
2. ボロ古着などの山を作り、クレーンでの作品はどうかと思う。震災地では多くのガレキの山が、いまだ土地の人々を悩ませている今ガレキを思わせるような作品は速やかに中止すべきである。重機のダンスも中止を願う。毎冬大雪となり除雪の予算が不足して現地では町民が困っている。除雪はダンスをするものでなく、住民の安住のために作業する機械である。
3. ディレクターの会計不明瞭。芸術とは言えない作品。見てわからない。説明と解説がない。
4. そのときだけ人が出入して住民は芸術に関心がない。終わってしまえば何の変化もない。村は軒数が減り人数が減っていくだけ、村が活気づき元気が出ることは少ない。そのときだけは賑やかになったみたいだが、後に続かない一部の人がお祭り騒ぎしている感じである。
5. よく分からない作品が多い。大学生が作品を作っているときは交流がありよかった。
6. あちこちに処分できないものが残るのではないか。公費で管理するには金ももったいない。一過性のにぎわいを押しつけられている気がして心からなじめない。
7. 多額の負担金を支出しても地域の人たちには何もメリットがない。その負担金で地域の人たちの要望が多い道路等の整備をしてほしいので、芸術祭には賛成できない。県道改良工事を要望しているがアート作品があるため改良工事が県の反対で未だ出来ていない。
8. 地域には地域なりの大事な伝統があるのだから、そのことを大事にして曲解しないで頂きたい。アーティストのものの考え方も、自我にのみおぼれてしまう様々な行為は慎んで頂きたい。
9. こへび隊について正直がっかりすることがたくさんありました。地域のことをもっと知った上で、地域の関係者、交通機関、来訪者との交流をやってほしい。

⑦芸術祭のイメージ：悪い、今後の開催：賛成しない

1. きれいな自然がアートに汚されている気がする。
2. 経費の無駄遣い。
3. ゴミの不法投棄。
4. 各アート作品について、予算、決算が明示していないことは非常に納得できない。芸術家に対しても同様である。
5. 大地の芸術祭をするくらいなら、東北になにかつくった方がいいのではないかな？
6. 芸術祭のために犠牲になることが多すぎる。もっと為政者には住民の災害対策等を考えて頂きたいと願っている。

アンケート調査票

十日町市市民・津南町町民の皆様へ

2012年8月

「越後妻有大地の芸術祭」に関する アンケート協力をお願い

向秋の候、皆さまには御清栄のこととお喜び申し上げます。

私ども新潟大学では文部科学省から研究費を受け、新潟県内で中山間地の地域社会の実態について調査を行なっています。このアンケート調査はその一環として、2000年から行なわれている「大地の芸術祭」が、地域社会や人々のつながりに与えた影響について、学術的に調べることを目的としています。十日町市・津南町での取り組みが他の地方でも参考になるかどうかを明らかにしたいと考えています。

御多用のところ恐縮ですが、アンケートへの御協力をお願いいたします。なお、今回の調査結果は2013年刊行の新潟大学紀要等の学術雑誌を通じて公表する予定です。調査結果は学術的な目的のみに使用し、御記入いただいた個人を特定することはありません。

ご記入に際してのお願い

1. 20歳以上の方がお答えください。
2. アンケート用紙を2部郵送させていただきましたので、ご家族でそれぞれ記入いただき、ご返送ください。1部だけのご返送でも結構です。
3. 回答は、あてはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。
4. 特に注釈がない場合、選択肢はひとつだけ選んでください。
5. 2000年の第1回「大地の芸術祭」開催前から現在までの状況を想定してお答えください。
6. 設問中の「地域」は集落または町内会の範囲としてお答えください。
7. 答えにくい設問は、無理に答えていただくなくても結構です。

調査実施 鷺見 英司 (新潟大学大学院 現代社会文化研究科 准教授)

ご記入いただいたアンケート用紙は、9/5（水）までにご返送ください。

問 1 大地の芸術祭について

芸術祭に対するあなた自身の考えをお聞きます。

(1) 芸術祭に対してどのようなイメージをもっていますか？

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 良い | 2. どちらともいえない | 3. 悪い |
| →【(2)へお進みください】 | →【(3)へお進みください】 | →【(2)へお進みください】 |

(2) 前問の(1)で良い・悪いと答えた、芸術祭に対してもっているイメージの原因は何だと
思えますか？ **※あてはまるものすべてに○をつけてください。**

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. アート作品 | 2. アーティストの活動 | 3. こへび隊の活動 |
| 4. 地域住民の対応 | 5. 行政担当者の対応 | 6. 来訪者 |
| 7. その他（具体的に | |) |

(3) 芸術祭のアート作品は地域の伝統・歴史を反映していると思いますか？

- | | | |
|-------|--------------|---------|
| 1. 思う | 2. どちらともいえない | 3. 思わない |
|-------|--------------|---------|

(4) 芸術祭は地域の新しい魅力を生み出す役割を果たしたと思いますか？

- | | | |
|-------|--------------|---------|
| 1. 思う | 2. どちらともいえない | 3. 思わない |
|-------|--------------|---------|

(5) 芸術祭がもたらした地域の新しい魅力・資源とは何だと思えますか？

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------------------------|------------|
| 1. アート作品 | 2. ステージ施設（キナーレ、農舞台、キョロロ） | |
| 3. アーティストとの交流 | 4. こへび隊との交流 | 5. 来訪者との交流 |
| 6. 何もなし | | |
| 7. その他（具体的に | |) |

(6) 芸術祭が今後も継続されることについてどう思いますか？

- | | | |
|---------|--------------|----------|
| 1. 賛成する | 2. どちらともいえない | 3. 賛成しない |
|---------|--------------|----------|

(7) 芸術祭全般について、ご意見がありましたらお願いします。

問2 大地の芸術祭を通じた地域の変化について

芸術祭があなたの住む地域にもたらした変化についてお聞きします。なお、「地域」は集落または町内会の範囲と考えてお答えください。

(1) あなたの住む地域は、他の地域に比べて、芸術祭に協力的だと思いますか？

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 非常に協力的である | 2. ある程度協力的である | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり協力的ではない | 5. まったく協力的でない | |

(2) 芸術祭はあなたの住む地域にどのような変化をもたらしたと思いますか？

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 好ましい変化 | 2. どちらともいえない | 3. 好ましくない変化 |
| →【(3)へお進みください】 | →【(4)へお進みください】 | →【(3)へお進みください】 |

(3) 前問の(2)で答えた、芸術祭が地域にもたらした変化の原因は何だと思いますか？

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. アート作品 | 2. アーティストの活動 | 3. こへび隊の活動 |
| 4. 地域住民の対応 | 5. 行政担当者の対応 | 6. 来訪者 |
| 7. その他（具体的に | | ） |

(4) 芸術祭があなたの地域にもたらした変化で、あてはまるものに○をつけてください。

A) 地域内の共同活動（集会所の清掃、神社や寺の管理、行事の運営等）

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. 変わらない | 3. 減った |
|--------|----------|--------|

B) 地域内の共同活動への参加人数

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. 変わらない | 3. 減った |
|--------|----------|--------|

C) 地域内でのあいさつ・会話

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. 変わらない | 3. 減った |
|--------|----------|--------|

D) 地域内での女性の活躍

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. 変わらない | 3. 減った |
|--------|----------|--------|

E) 地域内での高齢者（65歳以上の方）の活躍

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. 変わらない | 3. 減った |
|--------|----------|--------|

F) 地域内の活気

- | | | |
|---------|----------|--------|
| 1. 高まった | 2. 変わらない | 3. 減った |
|---------|----------|--------|

G) 地域内のまとまり

- | | | |
|---------|----------|--------|
| 1. 高まった | 2. 変わらない | 3. 減った |
|---------|----------|--------|

問3 大地の芸術祭を通じたあなた自身の変化について

芸術祭があなた自身にもたらした変化についてお聞きします。

(1) 芸術祭とはどのような関わりがありますか？（過去、現在問わず）

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 作品やイベントの見学 | 2. 勤務先の仕事 |
| 3. 地域での芸術祭関連行事への協力 | 4. 資産の貸与（土地・家屋・資材等） |
| 5. ワークショップへの参加 | 6. 来訪者への作品案内 |
| 7. 作品管理 | 8. アーティストへの協力 |
| 9. こへび隊への協力 | |
| 10. その他（具体的に | ） |
| 11. 過去には個人的な関わりがあったが、現在は関わりは全くない | |
| 12. これまで個人的な関わりは全くない →【(3)へお進みください】 | |

(2) (1) で選んだ関わりをもつことになった「きっかけ」を次の中から選んでください。

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 町内会や集落で仕事を頼まれたから | 2. 勤務先の仕事だから |
| 3. 友達に誘われたから | 4. 家族に誘われたから |
| 5. 行政の担当者に誘われたから | 6. 作家に誘われたから |
| 7. こへび隊に誘われたから | 8. 興味があったから |
| 9. その他（具体的に | ） |

(3) 地域内の他の人と比べて、あなた自身は芸術祭に積極的に協力しましたか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 他の人より積極的に協力した | 2. 他の人と同じくらい協力した |
| 3. 他の人より協力していない | 4. まったく協力していない |

(4) 芸術祭を通じて新しい知り合いができましたか？

- | | |
|--------|-----------|
| 1. できた | 2. できなかった |
|--------|-----------|

(5) 芸術祭を通じてできた新しい知り合いはどんな人ですか？

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-----------------|---------|
| 1. 地域内の人 | 2. 妻有圏内の人（地域以外） | 3. こへび隊 |
| 4. アーティスト | 5. 来訪者 | |
| 6. その他（具体的に | | ） |

問 4 あなたの住む地域について

あなたの住む地域について、あなた自身がどう考えているかをお聞きします。なお、「地域」は集落または町内会の範囲と考えてお答えください。

(1) あなたの住む地域には、大地の芸術祭のアート作品が設置されていますか？

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 設置されている | 2. 設置されていない |
| 3. 設置されていたが撤去された | 4. わからない |

(2) あなたの住む地域は、地域住民同士の交流があると思いますか？

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. とても思う | 2. ある程度そう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | |

(3) あなたの住む地域は、他の地域の人たちとの交流があると思いますか？

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. とても思う | 2. ある程度そう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | |

(4) あなたの住む地域で信頼できる人はどの程度いますか？

- | | | | |
|-------------|-----------|---------|----------|
| 1. ほとんど全ての人 | 2. 半分程度の人 | 3. 少数の人 | 4. 誰もいない |
|-------------|-----------|---------|----------|

(5) あなたの住む地域は、他の地域と比べて、まとまりがあると思いますか？

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. とても思う | 2. ある程度そう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | |

(6) あなたの住む地域に愛着がありますか？

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 2. ある程度愛着がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり愛着がない | 5. まったく愛着がない | |

(7) あなたの住む地域での生活に満足していますか？

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 1. とても満足がある | 2. ある程度満足がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり満足していない | 5. まったく満足していない | |

(8) 今住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか？

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 1. 住み続けたい | 2. どちらともいえない | 3. 住み続けたくない |
|-----------|--------------|-------------|

問5 社会に対する意識について

社会に対するあなた自身の意識についてお聞きします。答えにくい設問は無理に答えていただくなくても結構です。

- (1) 現在、あなたは芸術祭以外の、地域共同活動（集会所の清掃、神社や寺の管理、行事の運営等）にどの程度参加していますか？

1. 積極的に参加 2. 可能な範囲で参加 3. あまり参加しない
4. まったく参加しない 5. 地域活動自体ない

- (2) 現在、あなたは芸術祭以外の、ボランティア活動や NPO 活動、市民活動などにどの程度参加していますか？

1. 積極的に参加 2. 可能な範囲で参加 3. あまり参加しない
4. まったく参加しない

- (3) 現在、あなたは芸術祭以外の、スポーツ、趣味、娯楽など（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）の活動にどの程度参加していますか？

1. 積極的に参加 2. 可能な範囲で参加 3. あまり参加しない
4. まったく参加しない

- (4) あなたは、一般的に、他人を信頼できますか？

1. ほとんど全ての人 2. 半分程度の人 3. 少数の人 4. 誰もいない

- (5) 地域の人とのつきあいはどの程度ありますか？

1. 互いに相談するなど、生活面でも協力し合うようなつきあい
2. 日常的に立ち話をするつきあい
3. あいさつ程度のつきあい 4. つきあいはまったくしていない

- (6) あなたがつきあいや交流をしている地域内の人は何人くらいいますか？

1. 地域のほとんど全ての人 2. 地域の半分程度の人
3. 地域の少数の人 4. 地域の人とほとんど面識・交流がない

- (7) あなたは、あなたが住んでいる地域にとって利益になることのために、あなたの時間や労力を提供するよう求められた場合どうしますか？

1. 賛成する 2. どちらでもない 3. 反対する

最後に、あなたの属性についてお聞きします。これは統計的に処理するために使用し、個人を特定するためには使用しませんので、できるだけお答えください。

(1) あなたの性別に○をつけてください。

1. 男 2. 女

(2) おいくつですか？

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代
5. 60～64 歳 6. 65～74 歳 7. 75～84 歳 8. 85 歳以上

(3) あなたの職業にあてはまるものを1つだけ○をつけてください。

1. 専業主婦・主夫 2. 民間企業・団体 3. 自営業又はその手伝い
4. 公務員・教員 5. パート・アルバイト 6. 学生
7. 農業 8. 漁業 9. 林業 10. 年金生活者
11. その他（具体的に)

(4) 同居しているのはあなたを含めて何人ですか？

() 人

(5) あなたと同居している家族にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 配偶者 2. 子ども 3. 子どもの配偶者 4. 孫・ひ孫 5. 祖父母
6. 自分の親 7. 配偶者の親 8. 自分の兄弟姉妹 9. 配偶者の兄弟姉妹
10. その他（具体的に)

(6) 今住んでいる地域に現在まで何年住んでいますか？（合計で）

1. 2 年未満 2. 2 年～5 年未満 3. 5 年～10 年未満
4. 10 年～20 年未満 5. 20 年～30 年未満 6. 30 年～40 年未満
7. 40 年～50 年未満 8. 50 年以上

(7) 今住んでいる地域で生まれましたか？

1. はい 2. いいえ

(8) あなたが受けた学校教育にあてはまるものに○をつけてください。

1. 中学校（旧制小学校・高等小学校）まで 2. 高校（旧制中学校・高等女学校）まで
3. 専修学校・短大（旧制高校、専門学校、師範学校）まで
4. 大学（旧制大学）まで 5. 大学院まで

(9) あなたはどちらの集落にお住まいですか？

集落

ご記入お疲れ様でした。アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。